

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2019

Summer

お楽しみ満載
イタリアの旅

第二特集

美しい砂漠の国ナミビア

[ナミブ砂漠・ムーンランドスケープ・スワコプムンド]

[発行](株)ジャパングレイス



お楽しみ満載

イタリアを堪能する

ヨーロッパのなかでもイタリアの人気は格別で、乗船予定者の期待も高い寄港地だ。まず世界遺産の数が世界で最も多く、観光バリエーションが豊富で、芸術、文化にふれる機会にも恵まれている。そしてショッピングやグルメでも人々を惹きつける。主要な都市にはまたそれぞれ特徴があり、楽しみは尽きない。現在発表しているピースボートクルーズで訪れる、イタリアの寄港地を紹介する。

Republic of Italy

CONTENTS

特集

お楽しみ満載

イタリアを堪能する

- ローマで素敵な休日を…………… P4
- 世界最小国「ヴァチカン市国」を巡る…………… P6
- 美しきナポリを楽しむ、
古代都市ポンペイ遺跡へ…………… P7
- サレルノから
麗しきアマルフィへ向かう…………… P8
- 優雅なリゾート地ソレントへ…………… P8
- シチリア島カタニアを満喫する…………… P9
- イタリアングルメ…………… P10
- アンバサダーインタビュー…………… P12

第二特集

美しい砂漠の国 ナミビア…………… P14

- 地球とは思えない、月面世界を体験する…………… P16
- ナミビア一番のリゾート地スワコプムンド…………… P17

- PEACE BOAT TOPICS
ハイティーを楽しむ…………… P18

表紙の写真

ローマの世界遺産「コロッセオ」。ローマ帝政期の繁栄を物語る象徴。





「永遠の都」として世界中の人々から愛される街
ローマで素敵な休日を
 イタリアの首都ローマは「永遠の都」と呼ばれ、世界の観光地のなかでも屈指の人気を誇る。古代からローマ帝国が築かれ、ヨーロッパの中心として栄え、「ローマは一日にして為らず」すべての道はローマに通ずなどの格言も生んでいる。2600年もの歴史と文化が色濃く残っている街並みをはじめ、世界遺産の数々、雑誌やテレビで見たことのある観光スポット、そして美食の国イタリアのグルメなどが訪れるものを楽しませてくれる。

ローマ観光でまず外せないのは、古代ローマ帝国時代に建造された、世界遺産の「コロッセオ」。コロシラムの語源ともなっているように、この円形闘技場で剣闘士や猛獣が闘いを繰り広げた。長径188メートル、短径156メートルの楕円形をしていて高さは48メートルもあり、収容人数は5万人という規模だった。入場し4階層の観客席を回りながら往時に心をタイムスリップさせてみよう。その昔、猛獣などを収容していた地下施設、演出用のセットなどを目の当たりにすると、歴史の重さを感じられる。ローマの象徴としてあまりに有名な施設は現在、さまざまなイベントにも使用されているそうだ。常に多くの人で賑わっているのは「スペイン広場」。スペイン大使館が

チューン、海馬やトリトンの彫刻も見事な美しさだ。「ローマに戻りたいと思うなら、後ろ向きにコインを投げよ」という言い伝えがあり、2枚投げると想いの人との結婚がかなうともいわれている。トレヴィの泉が現在のような姿になったのは1762年のことだが、そのルーツは古代ローマにある。初代皇帝アウグストゥスの時代、すでに「水道」が整備され、その水道を通った水が現在も噴水から吹き出ている。

あることからそう呼ばれているが、映画好きの人にとって名画「ローマの休日」でおなじみだ。オードリー・ヘプバーン演じたアン王女が「スペイン階段」でジェラートを食べるシーンが思い起こされるだろう。広場には1629年に制作された「舟の噴水」があり、記念撮影のスポットになっている。また階段途中にはイギリスの詩人の邸宅を改築した「キーツ・シェリー記念館」など見どころも多く、階段を上れば「トリニタ・デイ・モンティ教会」があり、ローマを一望できる見晴らしの良さも魅力だ。



1: 映画「ローマの休日」でおなじみの「スペイン階段」。2: ポーリ宮殿と一体となった美しい「トレヴィの泉」。3: 偽りのある人間が手を入れたと噂み切られてしまう伝説がある「真実の口」。



Augustus
 ヴァチカン美術館に所蔵されている古代ローマ帝国初代皇帝アウグストゥスの大理石像。

Pompeii [ポンペイ]



1:ポンペイ遺跡内にある炊事に使っていた台所跡。2:文明の高さを伝える円形劇場。3:古代ローマ当時の生活の様子が伺える街並み。

ローマ、ミラノに続くイタリア第三の都市ナポリ。古くから「ナポリを見てから死ぬ」といわれるように、湾岸には世界三大美港の名にふさわしい、目を見張るほどの美しい景観が広がっている。遠くにはヴェスヴィオ火山も望める。

周辺の観光スポットは、1995年に「ナポリ歴史地区」として世界遺産登録された旧市街地で、歴史的建造物、遺跡など見どころが多くある。要塞である「卵城」は基礎部分に卵を埋め、卵が割れるときにナポリが減びると呪文がかけられた言い伝えがある。中世に激しい戦闘の舞台となった「ヌオヴォ城」は重量感がある一方、城内は豪華な装飾がほどこされている。また下町、スバッカナポリを歩けば現地の人々の暮らし

にふれることができる。名物の「ピッツア」を頬張って、土産物屋をのぞくのも楽しい。少し足を伸ばせば、バラの窓で有名な「サンタキアラ教会」を見ることが出来る。

オブシヨナルツァーを利用して「ポンペイ遺跡」を訪ねるのもお勧め。今から1940年前、ヴェスヴィオ火山の噴火によって、一瞬にして姿を消した悲劇の都市として知られる。紀元前4世紀以前から繁栄した古代都市より掘り起こされた、行政の建物、神殿、浴場、コロッセオなどの遺跡から、高度に発展した文化都市の姿を伺い知ることができる。また壁画や落書きから活気ある生活も想像でき、はるか昔に心をタイムスリップさせるのもポンペイ遺跡ならではの体験だ。

美しきナポリを楽しみ、古代都市ポンペイ遺跡へ



ヴォメロの丘にある「サンテルモ城」から宝石箱のようにきらめくナポリ旧市街を眺めることができる。

[ナポリ]

Naples



ナポリの守護神「ブルチネッラ」の人形はお土産の定番。

4:ナポリ中央にあるゴシック様式の「サン・ドメニコ・マッジョーレ教会」。5:昔ながらの工房が軒を連ねる「サン・グレゴリオ・アルメーノ通り」でお土産を求めるといい。6:ルネッサンス建築によって造られた「ヌオヴォ城」。



Vatican [ヴァチカン市国]

イタリア・バロック様式の代表格である「サン・ピエトロ大聖堂」と楕円形の回廊をもつ「サン・ピエトロ広場」。



キリスト教の教会建築として世界最大級の「サン・ピエトロ大聖堂」と1499年にミケランジェロが完成させた「ピエタ」。



数々の著名画家が描いている「システーナ礼拝堂」の壁画。



ヴァチカン美術館の出口付近にある人気スポットの螺旋階段。



20もの博物館、美術館、絵画館、図書館がある「ヴァチカン美術館」。

世界最小国「ヴァチカン市国」を巡る

ローマからわずか20分ほどで行ける、カトリックの総本山「ヴァチカン」。4世紀に世界最大級の教会「サン・ピエトロ大聖堂」が建てられ、その歴史は始まった。イタリア政府とローマ教皇庁が紆余曲折の折衝の末、現在のような健全な関係になったのは1929年で、晴れて独立国家のヴァチカン市国となった。

国の総面積は約0.44平方キロメートル。領土は狭いが、1984年には国土全体が世界文化遺産に登録され、観光客が絶えることはない。ただし観光客が入れる場所はサン・ピエトロ広場・大聖堂とヴァチカン博物館の周辺に限られている。

サン・ピエトロ大聖堂は初代ローマ教皇の聖ペトロを祀った教会で、16〜17世紀にかけてラファエロやミケランジェロが改築に関わり、芸術性の高さで

も知られる。神聖な場所のため見学にあたってのルールを厳守することはもちろん、ミサのある礼拝堂は見学できないので、あらかじめ調べておきたい。サン・ピエトロ大聖堂のクーポラの頂上に出ると、パノラマの景色が広がり、ローマの絶景を堪能できるビューポイントだ。

「ヴァチカン美術館」は歴代の教皇が収集した芸術品が展示されている世界最大級の美術館。「システーナ礼拝堂」は、ルネサンス期の巨匠たちの壁画が埋めつくし、有名な「天地創造」「最後の審判」なども見ることができる。また教皇を決めるコンクラーヴェの会場としても知られている。「ラファエロの間」では、傑作の壁画を鑑賞できる。古代ギリシア時代の彫刻「ラオコーン像」は八角形をしたベルヴェデーレの中庭にあり、歴史的な彫刻作品はぜひ見ておきたい。このほか絵画、博物館などもある館内は広く展示物も膨大。いつも見学者の列ができていたので、比較的空いている朝一番に行き、ポイントを絞って見学するのがお勧めだ。

サレルノから麗しきアマルフィへ向かう

第104回ピースボートクルーズで初寄港となる「サレルノ」は、ナポリから約50キロ南東のティレニア湾に面した港湾都市。国際映画祭の開催地としても知られている。ここからバスで1時間ほどで行けるスポットが「アマルフィ」だ。崖に囲まれながら



切り立つ山に建つ可愛い街の目前に世界一美しいと称される「アマルフィ海岸」が広がる。

海に面した地理を活かして古くから諸国との貿易で栄え、海洋国家として発展した歴史がある。その名残りを石造りの大きな階段、9世紀に建立された壮麗な大聖堂などから感じることができる。もちろん、イタリア随一の美しさといわれる、30キロに渡ってのびる世界遺産、アマルフィ海岸も見逃せない。真つ青な海に思わず感嘆の声が上がるだろう。ここはギリシア神話の英雄ヘラクレスが最も愛した恋人を葬ったという伝説もある。現在は世界中から観光客を集めるリゾート地として知られ、初夏以降は海水浴場も華やかに賑わう。



1:アマルフィ海岸の海水浴場は大勢の観光客で埋まる。2:イタリアで誕生したレモンリキュール「リモンチェッロ」。

優雅なリゾート地ソレントへ

アマルフィ海岸の起点となっているのが風光明媚なリゾート地として人気の「ソレント」。有名なナポリ民謡の「帰れソレントへ」で歌われている街だ。港からは「青の洞窟」で有名なカプリ島行きのフェリーが発着している。街は高台に位置しており、ティレニア湾の美しい海を望むことができる。街の中心ともいえるタッソ広場は、詩人トルクアット・タッソにちなんでつけられた名で、中心には街の守護神聖アントニノの像が立っている。落ち着きのあるお洒落な雰囲気の違いが続き、お土産屋やブティックなどが並び、名物の寄



3:車が入れない路地裏には小さな店が賑やかに並ぶ。4:タッソ広場の近くにある美しい「カルミネ教会」。5:レモンをモチーフにした陶器の絵皿。



お洒落なリゾート地の景観が南イタリアらしいバカンス気分を盛り上げてくれる。



シチリア島カタニアを満喫する

ブーツの形をしたイタリア半島の、つま先に位置している三角形、それがシチリア島である。その歴史は古く、紀元前10世紀頃から発展し、古代ギリシアやローマ時代などの文化が今に残され、温暖な気候、雄大な自然、グルメをうならせる郷土料理など、世界中から訪れる観光客を虜にしている。

カタニアは、シチリア島でパレルモに次いで2番目に大きな街で、その街並みは古い歴史をもち世界遺産に登録されている。観光スポットも多く、映画「グラン・ブルー」の舞台になったことで知られるタオルミーナは標高200メートルに位置する高級

リゾート地として世界中から人気を集めている。タオルミーナの高台からの眺めは昼も夜も美しく、ヨーロッパ最大級の活火山でありカタニアのシンボルといえるエトナ山も一望できる。また街は高台にあるため見晴しが良く観光にも最適だ。その一方で、紀元前4世紀から歴史があるため、古代ローマ時代の遺跡が多い。海に突き出た崖の上にある「ギリシア劇場」は現在も現役の劇場として使用されている。このほかオデオン小劇場、ローマ浴場などを観光することができる。

シチリア島の南東部の小さな港町シラクサも人気の高い街だ。エメラルドブルーの海が広がり、穏やかな時間が流れている。街の中心である海に突き出たオルテジア島には紀元前5世紀に建った神殿が改装され教会になった「シラクサ大聖堂」がある。バロック様式の建物は美しく、その前は広場になっているのでカフェ



でゆっくりくつろぐのもお勧めだ。近くに市場があるので、のぞいてみると食の豊かさがわかる。レストランで新鮮な魚介類をはじめとするシチリア料理をオーダーすれば地元ならではの美味しさを味わえる。

「ネアポリ考古学公園」へ向かうと、イタリアで最も大きな、岩盤をくりぬいて建設された「ギリシア劇場」、古代ローマの円形闘技場、帝王の名を冠している「ディオニソスの耳」などの遺跡が保存されている。



6:ギリシア神殿であった名残りが外観、内観ともにある「シラクサ大聖堂」。7:カタニアの街には絵になる洒落た小道が多い。8:陶器の街カルタジローネの土産品。



Catania [カタニア]

タオルミーナから望む「エトナ山」。50万年前から噴火し、今も煙を上げながらカタニアの街そしてシチリア全土を見下ろしている。

Northern Italy [イタリア北部]



Banya cauda

バーニャカウダ

ピエモンテ州の郷土料理。バーニャ=ソース、カウダ=熱いを意味する。元は、農民が生み出した料理。



マルゲリータ

イタリアといえばピザ。トマト、モッツァレラチーズ、バジルをのせたマルゲリータはナポリピザの代表。



Carpaccio

カルパッチョ

起源は諸説あるが、薄切りの生牛肉にチーズ、ソースなどをかけた料理のこと。魚のカルパッチョは日本が発祥。



Bolognese

ボロネーゼ

「ボローニャ地方の」パスタ。フランス料理を参考に肉をトマトで「ラグー(煮込み)」したのが始まり。



Prosciutto

生ハム

イタリア産「コッパ」は、古代ローマの保存食で豚肉を熟成させ、かむほどの旨味が広がる逸品。



Risotto

リゾット

米料理の文化があるイタリア北部で生まれ、現在はイタリアンレストランの定番メニュー。



ジェラード

イタリア名物のイタリアンジェラート。派手な色はフルーツの自然の色を生かしているから。



カンノーロ

シチリアの伝統菓子。サクサクの生地でさっぱり甘いクリームを包み込んだ絶妙のハーモニー。



パンナコッタ

パンナ(生クリーム)をコッタ(煮た)という意味のピエモンテ州を発祥とするイタリアを代表する菓子。



ティラミス

北イタリア生まれの日本でも最も有名なドルチェ。現在はイタリア各地に名店がある。



イタリアン グルメ

Italian Gourmet



イタリアはグルメの宝庫である。日頃から、日本でも食卓に並んだり、身近なイタリアンのお店でその美味しさに舌つづみをうっているわけだが、本場で食べる料理となるとまた格別だ。イタリアへ旅立つ前に、ちょっとした豆知識をご紹介します。

[イタリア南部] Southern Italy



Arancini

アランチーニ

シチリアの郷土料理。ライスコロッケで、現在では具材はさまざまにアレンジされて食されている。



Vongole Bianco

ボンゴレビアンコ

ボンゴレはあさり、ビアンコは白(ワイン)の意味。南イタリアの海岸沿いで最もポピュラーなパスタ。



Aqua pazza

アクアパッツァ

魚介類が豊富な南イタリアの郷土料理。漁師料理が起源という説もあり、新鮮食材の旬を楽しむ料理。



Couscous

クスクス

北アフリカからシチリアに伝わったとされる料理。家庭料理としても定着し味のバリエーションも豊富。



Caponata

カポナータ

シチリアとナポリの伝統料理。ナスをはじめ夏野菜の炒め煮で魚介類などが入る場合もある。



アンバサダーが語る

ピースボートクルーズ体験

地球一周の船旅親善大使(アンバサダー)を務めている平井葉子さんは、10回のクルーズ体験をもとに、乗船希望者の質問や問い合わせに應對している。南半球を巡る第100回クルーズにも乗船した平井さんの寄港地での思い出、船上生活などについて話を聞いた。

第100回クルーズ乗船
平井 葉子さん

ピースボートクルーズを通して知り合った友人たちとは、年に数回集まって食事をしたりする中で、海外の友人とも定期的に連絡を取り合っているという。



初めての乗船は1997年

「ピースボートクルーズに初めて乗船したのは1997年でした」という平井さん。もともとピースボートの活動に関心はあったが、30代40代と仕事と家事の両立で忙しい身に時間的な余裕はなかった。乗船が実現したのは子育てが一段落したタイミングだった。

「家族も喜んで送り出してくれまして、3週間という短いクルーズでしたが、ベトナム、台湾、シンガポールなどを巡り、とても素敵な体験でした」。また久しぶりに24時間すべてが自分の時間になる日々を送り、「食事もお掃除もすべてお任せで、船内では多くの友人ができて、こんな楽しいことはないと思いました」と笑う。

第24回
ピースボートクルーズに乗船

スタッフの誘いもあり、翌年には念願の世界一周に乗船した。

「乗船したのは第24回ピースボートクルーズ。乗船場所は日本ではなくイギリスのリバプールで、世界一周分の荷物を持って集合するなど大変でしたがそれをもた楽しかったです。キューバ、スペイン、カンボジアをはじめ印象に残る国や

場所も多くあります。キューバのハバナはとても気に入りましたし、バルセロナで食べたシーフード料理の味は忘れられません。アンコールワットには長期滞在し、毎日ジャングルの中へ出かけて遺跡を巡り、大自然も満喫しました」。

ひと昔前の
船上生活を振り返って

ピースボートクルーズに惹かれた平井さんは、その後、短いクルーズも含めて9回のピースボートクルーズに乗船。何度も訪れたナミビアでは現地に友人ができて、寄港するたびに友情を温めてきたという。船内の生活はというと、現在とは多少異なっていたと振り返る。

「当時たとえば食材は寄港地で調達していたので、東南アジアに行けば船内の食事でも東南アジアテイストでした。また売店でも寄港地でお菓子を調達し、時期によつて品揃えが変わっていた記憶があります。そのこともあり、今回のクルーズで私はお菓子をたくさん買って乗り込んだのですが、売店には日本のお菓子の種類や品揃えも多く、あれ？以前とは違うなと思いました(笑)」。

第100回クルーズで
懐かしの街を訪ねる

平井さんが「今回のクルーズ」というのは、昨年12月に出航した第100回ピースボートクルーズのこと。家庭の事情もあり、しばらくピースボートとは離れていたが、「プライベートも落ち着きを取り戻し、また記念クルーズなのでリピーターが多いと聞き、旧知の友人も大勢乗船すると思い申し込みました」。そんな15年ぶりのピースボートクルーズは平井さんの目にどう映ったのだろうか。

「もちろんすべての寄港地が素晴らしかったのですが、最も印象に残ったのは南アフリカのポートエリザベスです。サファリの保護区において野生動物を目の前で見られたからです。とてもワクワクする貴重な体験でした」。

また、オプショナルツアーにはどのような基準で参加しているのだろうか。

初めて行く寄港地では、効率よく観光地をまわれるようオプショナルツアーを取っています。今クルーズで寄港したケープタウンは過去に訪れたことがあったので、友人たちと一緒に自由行動で街まで行き満喫しました。また、

ピースボートならではの交流ツアーも毎クルーズいくつか取るようにしています。一般的な観光では見たり感じたり

できない、印象に残る貴重な体験をすることができると思います。

イベントの多さや
グローバル化も近年の傾向

ピースボートクルーズでは船内のさまざまなイベントやプログラムが人気だが、平井さんのお勧めを聞いてみると「昔から続いている夏祭りや運動会は、今回も最高に楽しかった」と語る。また「乗船者の方のさまざまなお話を聞く機会は以前からありましたが、語学教室、ダンス、ウクレレ、和太鼓、卓球などをはじめ講座やイベントがたくさんあつて、楽しみが増えるし新しい友だちと出会う機会も多くなります」と船上生活の魅力を紹介してくれた。もうひとつ今回のクルーズで気づいたことがあつたという。「アジア諸国から乗船される方や語学教室(GET)スタッフなども含めると船内はとてもグローバル。英語を話す機会も増え、自分次第で外国のお友だちもどんどんつくれます」。

さまざまなか
きっかけが詰まった「玉手箱」

現在平井さんは、ジャパングレイスにおいて週一回、アンバサダーとして活躍している。乗船希望者などの訪問を受けて、ご自身の体験をもとに、ツアーの



太極拳のチームメイトと共に。



最高に盛り上がった夏祭り。



世代を超えた友人たちと「波へい」で集う。

★船上生活に便利だったもの(平井さん談)

小型の
ショルダーバッグ

寄港地で外出する際などに、貴重品や上着など身の回りのものを入れて持ち歩けるバッグが活躍。

上着や
トレーナー

寒暖差がある場所が多いので、すぐに着脱できる上着などをもっていくと便利。

カルピス

自分の嗜好に合った飲み物。あるいはスティックコーヒーも船内で人気だったという。

美しい砂漠の国ナミビア

ナミビアはアフリカ大陸の南西部に位置し、西側は大西洋に面している共和制国家だ。寄港地のウォルビスベイは首都ウィントフックから西にあり、大西洋沿いには約1300キロにわたって、世界一美しいといわれる「ナミブ砂漠」が広がっている。

Namibia

ナミビアの国名の由来は「何も無い土地」という意味からきているが、実は多様な魅力をもっている国である。世界遺産に登録されているナミブ砂漠をはじめ、野生動物との出会い、豊かな海や溪谷など多くの見どころがある。

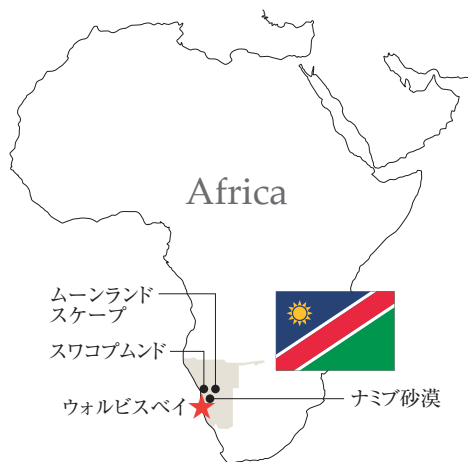
ナミブ砂漠は世界最古の砂漠ともいわれ、8000万年前に生まれたという説もある。現在のような姿になったのが200万年前という、途方もない時空を経てきた自然の産物だ。ナミブ砂漠は大部分が国立公園で、幹線道路沿いには象牙色の砂丘郡が延々と広がっている。ウォルビスベイの東側郊外にあるのが「デューン7」と呼ばれる砂丘。高さ100メートルにも及ぶ

砂丘が連なりながら続く砂漠は、砂丘に番号が付けられていて、「デューン7」は人が登ることができない数少ない砂丘の一つ。丘とはいえ、かなりの距離を砂に足を取られながら歩くので、体力も使う。頂上に到着したら、見渡すかぎり砂丘が広がる壮大な景色を堪能できる。刻々と変わる砂肌の風紋の美しさも必見。運が良ければ、砂漠に生息するオリックスやインパラなどの野生動物の姿を見ることができるとも知れない。

またインターネットなどでナミブ砂漠を象徴する風景として登場する、赤い砂漠「ソッサスフレイ」は、オーバーランドツアーで行くことができる。



人が登ることができる砂丘では観光客が列をなして歩く風景が見受けられる。



ナミブ砂漠の中部に位置するソッサスフレイ砂丘は、赤い砂漠として世界的に知られている。

砂丘が連なりながら南北に1288キロ、幅120キロの広大な砂漠が延々と続く。



Swakopmund [スワコプムンド] 1900年前後に建築された淡い色づかいの建物が目を引く。



1:道路や公園が整然と整っている。
2:歴史のあるスワコプムンド灯台は
観光名所。3:海辺でフラミンゴを見
かけることもある。



肉や豆の煮込み料理がナミビアではポピュラー。



Namibia Craft



4:カラフルな色合いの人形。5:天然木を生かした木彫りのお面。6:プレスレットなどの
アクセサリーもお土産に人気。

ナミビア一番のリゾート地スワコプムンド

スワコプムンドはかつてドイツ領で
あり、1892年にドイツの南西ア
フリカの主要港として建設された。
その名残りで、街に並ぶ店の看板に
ドイツ語が書かれ、ヨーロッパ風の建
物も多い。道路は碁盤の目のように
走り、公園も整備され、それまで見
てきたナミビアの砂漠の風景とは
まったく異なり、「砂漠のオアシス」
といった感がある。またリゾート地と
して知られていて、海岸線には美しい

ビーチが広がり、スワコプムンド灯台
やスワコプムンド博物館などの観光
ポイントも人気だ。
海沿いの街なので、シーフードのお
いしいレストランもあり、本格的なド
イツ料理を堪能することもできる
し、ドイツビールを楽しむパブもあ
る。またお土産屋も充実しているの
で、アフリカンな人形や置物などの
工芸品をはじめナミビアらしい品を
求めることができる。



Moon landscape [ムーンランドスケープ]

世界最古の砂漠のなかに広がる岩の大地。山の断面には地層を見ることが出来る。



途方もなく長い時間をかけて自然の力が生み出した天然の芸術。

地球とは思えない、月面世界を体験する

ナミビア観光として外せないのが
「ムーンランドスケープ」。約5億年
前に地底から押し出された花崗岩
がスワコプ川によって寝食されてでき
た地形で、水が削り出した奇跡の風
景といえる。まさに月面はこうした
姿をしているのだらうと思わせる、
クレターのような地相、ごつごつと
した岩、荒涼とした風景はその名の
通りの月面世界。ここはまた、映画
「猿の惑星」のロケ地としても知られ
ている。車を降りて歩いていくこと
ができるので、小高い岩山に登って

辺りを見渡してみよう。地球ではな
いような、異次元の世界に引き込ま
れそうになる。
ここまできて忘れてはならないの
が「ウェルウィッチャ」という植物。
ナミビアを訪れる観光客の多くが見
るのを楽しみにしている不思議な植
物で、ほとんど雨の降らない砂漠にお
いて、わずかな水分だけで2000年
も生きることがあるという。乾燥し
た大地から葉がいくつも伸びている
が、2枚の葉でできているのが裂け、
このような形状になるらしい。大き
くなると4メートルほどに広がる。奇
抜な生き物という印象から、日本語
名が「奇想天外」というのもうなず
ける。一方で長い繁栄の証として、ナミ
ビアの国章にも用いられ、ラグビー代
表チームの愛称にも使われている。



乾燥地帯の地面に貼りつくように点在
している「ウェルウィッチャ」。葉っぱは
厚紙のような感触。

船上で優雅に ハイティーを楽しむ 午後のひとときを



英国発祥の「ハイティー」をベースにした店がオープン

第101回のピースボートクルーズから船上に新しく店「BON VOYAGE」（ボン・ヴォヤージュ）がオープンした。アフタヌーンティーと並んで英国で楽しめる「ハイティー」をベースにした店として登場した。ハイティーとは、あまり聞き慣れない言葉だ

世界を巡りながら世界各国の紅茶、コーヒーを味わう

が、辞書によると、英国発祥で夕方に出される軽食付きのお茶」とある。アフタヌーンティーと違うのは、お菓子やクッキー、or サラダ、サンドウィッチ、ケーキのほか肉料理や魚料理も出されるようだ。

素晴らしい眺望とともに
優雅に過ごしていただく

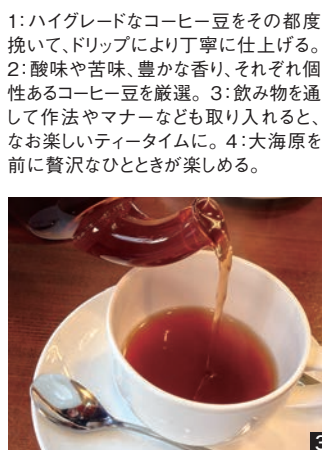
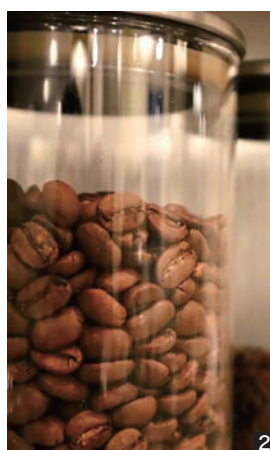
「BON VOYAGE」がオープンしたのは7階船首の図書コーナー前で、船内でも特に眺望の素晴らしい場所。ここで前方に広がる大海原を眺めながら、午後のひとときを優雅に過ごしていただくことがコンセプトだ。こちらのハイティーメニューは、3段トレイによるサービスで、すべて自家製のクッキーが3種、フルーツ2〜3種、サンドウィッチ、ワッフルが基本で、3種類のジャムからお好きなものを選んでいただけるようになっている。

紅茶、コーヒーともに
こだわりの逸品をご用意

こだわりの紅茶は英国フォートナム・アンド・メイソン社から仕入れ、ロイヤルブレンド、フォートメイソン、アールグレイクラシックなど7種の



5: 什器も含めてこだわりのある商品づくり、空間づくりを通してつろぎのひとときを演出。6: ご夫婦や友人同士でゆったりとした時間を満喫する方も。



1: ハイグレードなコーヒー豆をその都度挽いて、ドリップにより丁寧に仕上げる。2: 酸味や苦味、豊かな香り、それぞれ個性あるコーヒー豆を厳選。3: 飲み物を通して作法やマナーなども取り入れると、なお楽しいティータイムに。4: 大海原を前に贅沢なひとときが楽しめる。



高級茶葉を使用したものを用意している。茶葉の香り美味しさを最大限に引き出すポットサービスで、蒸らし時間も徹底して管理されている。また紅茶だけではなくコーヒーを用意しているのも特徴で、マウンテンモカ（エチオピア）、スーパーマンデリン（インドネシア）、サンタ・クラウディア（コロンビア）など5種類を用意。豆から挽くことはもちろん、一杯ずつ丁寧にドリップにこだわって香り豊かに仕上げていく。さらに世界一周の寄港地でグレードの高い豆を仕入れていくというから楽しみだ。

「よい船旅をーよい人生をー」

船上では多くの方にご利用いただき「新たに、贅沢なくつろぎの空間ができた」「ハイティーを楽しみながら友人との会話もいっそうはずむ」「目の前で丁寧に仕上げられるコーヒーが素晴らしい」「生演奏のBGMでいっそう優雅な雰囲気になる」など好評いただいている。

店名の「BON VOYAGE」は「よい船旅をーよい人生をー」という意味で、今後乗船される方も、まさにこの店名に合った時間を、船上で楽しんでいただきたい。



船上百景 [洋上夏祭り]



浴衣や法被に身を包み、みんなで一つになっての盆踊り。

多彩なプログラムで盛り上がり 最後は盆踊りで最高潮

「二番楽しかったイベントは夏祭り」という声を毎回聞くほど、「洋上夏祭り」は高い人気を誇る。当日は、浴衣や法被を着て参加する人も多くお祭りが盛り上がる。夏祭りのプログラムは盛りだくさん。ヨーヨーすくいや輪投げなどの出店は年代問わず楽しむことができ、かき氷や綿菓子といった祭り定番の屋台も大盛況。手作りの神輿が登場すれば会場から大きな歓声がわき、雰囲気がいっそう高まっていく。ゲームもさまざまな用意され、衣裳や仕掛けに趣向をこらして準備した「お化け屋敷」にはコワイもの見たさに長い列ができた。また最高潮は、参加者全員が特設やぐらの周りにいくつもの輪をつくって躍る、盆踊り。音頭に合わせて和太鼓が鳴り響き、初めて躍る参加者も大きな笑顔で、みんなで一つになることができる。大海原の開放感が夏祭りを格別なひとときとして演出してくれるのだ。



ヨーヨーすくいなどのゲーム也大盛況。



和太鼓の響きが祭りと盆踊りを盛り上げる。

7月下旬だというのに、今日も東京の空は曇っています。日照不足で農作物への影響も出ていますし、数十年後には地球温暖化の影響で関東周辺の梅雨明けは8月に入るという予想もあります。所変わって7月上旬の南太平洋、午前10時34分——日中だというのに夜の様な暗闇が広がり、空にはシリウス(おいぬ座)が輝きを放つ。これは、オーシャンドリム号にて7月2日に観測した皆既日食のときの様子です。僅か3分50秒という短い時間でしたが、気温が下がることで涼しくなり、いつも当たり前のよう存在している太陽のありがたを実感できたようです。

いつもそこにあるもの——太陽や空気はもちろん、家族や友だちや何気ない日常。船のデッキから大海原を眺めていると、そんな当たり前の存在に想いを馳せるときがあります。失ってはじめて気付くと言われる「あたりまえ」。でも、失わずともその大切さを感じられるのが旅の良さではないでしょうか。非日常な世界のなかで、「あたりまえなんて存在しない」を感じることができれば、旅から戻ったときのいつもの景色がまた違って見えるかもしれませんね。(N.I)

